

古都平安京と琵琶湖を眼下に從えて悠然とたつ比叡山に、行者道を踏みしめ修行する回峰行者の姿があります。

江戸時代の『淡海温故録』によると、比叡山には里坊も

含めて「比叡山八三千坊、比良ノ山ハ七百坊」とよばれるほど多くの堂舎が建立されて

いました。堂舎はさまざまな歴史や信仰、思想に基づき建

立され、現在、境内に約150の堂舎が点在し、「三塔十六谷五別所」とよばれる複雑

な山岳伽藍を構成しています。三塔とは東塔、西塔、横川を示し、それぞれに根本中堂（一乗止観院）、釈迦堂（転法輪堂）、横川中堂（首楞嚴院）が中心堂舎として建

地となります。けっして過ごしやすいたはいえない山中で寒さと湿気に耐え、清貧を守り、僧たちは学僧として修行僧として、教学と論議を重ねています。

その山中での数多い修行に、相応和尚を始祖とする千日回峰行、伝教大師の祖廟のある浄土院での十二年籠山行、三年間、元三太師堂で真言を唱える修行があります。

これらはその厳しさから回峰地獄、掃除地獄、看經地獄といわれ、「三大地獄」と表現されています。また、天台宗住職になる修行に三年籠山行や百日回峰行もあります。修行僧は一端修行に入れば途中で止めることは許されませ

ん。その荒行・苦行は自らを律し、仏を感じ仏と一体になる修行といわれています。その比叡山は全山、鳥類保護地域に指定されています。それは次のことからうかがえます。平成6年、滋賀県は記録的な濁水が続ぎ、夏には琵琶湖の水位がマイナス123

センチまで下がりました。多くの湖底遺跡が顔を出し、坂本の湖岸では坂本城跡の石垣が現れ、石垣の実測と保存措置を講じた記憶があります。京阪神でも取水制限がなされまし

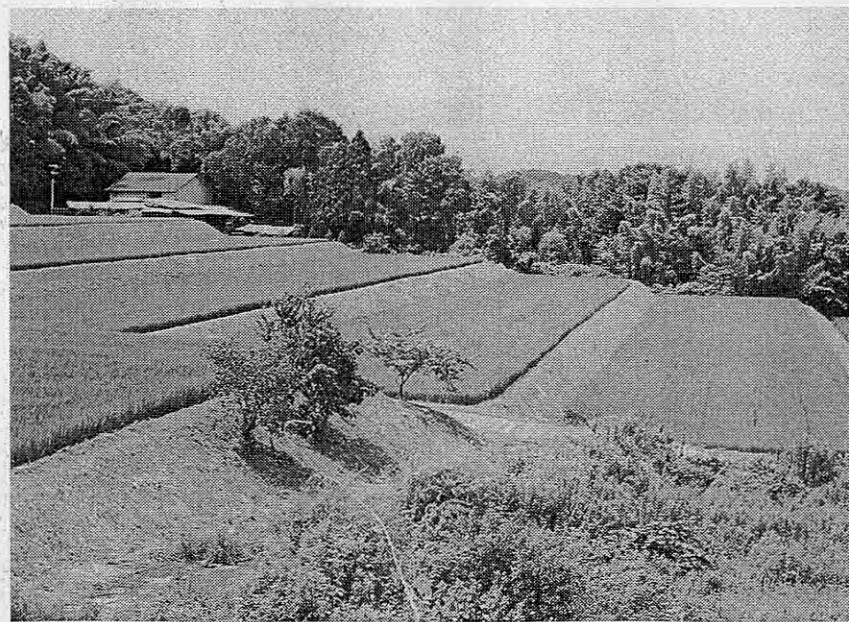
たが、比叡山の谷川は水量こそ減じたものの涸れることはありませんでした。山中には20力以上の湧水がありま

す。主な水源名に、東塔の地蔵水、延命水、相応水、西塔の浄明水、独鈷水、雲井水、横川の如法水、碧玉水を始め千日回峰行者が無動寺の堂入りで取水する閼伽井や弁慶が西塔参籠に際し、汲んだとい

われている、弁慶水などがあります。これらは夏は冷たく

たが、比叡山の谷川は水量こそ減じたものの涸れることはありませんでした。山中には20力以上の湧水がありま

## 比叡山のさまざまな顔



比叡山麓の棚田

その多湿な比叡山で生命を育む水源は、動植物にとって命の源です。比叡山には多くの野鳥が生息しており80種以上の野鳥が観察され、野鳥の

宝庫として昭和5年に国の天然記念物に指定されています。さらに「エイザン」名を付けた草花も多くあります。比叡山から流れ出る谷川の流

## 修行と学問、恵み多き自然

静寂の中、小鳥のさえずり、谷川のせせらぎに耳を傾け草花に目をやり、1200年の歴史に思いをはせ寺々を巡拝していると、高僧の修行に励んだ志が聞こえてくる気がします。

(滋賀県文化財保護協会 葛野泰樹)